



ハイレイト祈禱課題 2026年8月号

1. イスラエルとレバノンの和平への一歩を覚えて

イラン情勢に世界の目が向けられ、戦火がイスラエルに及ぶことも懸念されています。こうした中、イスラエルとレバノンの間では、新たな動きが生まれています。6月26日、両国はアメリカの仲介により、恒久的な和平に向けた「枠組み合意」に署名しました。1949年の休戦協定以降、77年間にわたって戦争状態を解消してこなかった両国にとって、歴史的な第一歩です。

注目されるのは、レバノン政府がヒズボラの武装解除と軍事インフラの解体を正式に約束した点です。ヒズボラは、打倒イスラエルを目的に結成されたレバノンの武装組織で、イランの代理組織です。イスラエルにとって、長年にわたって最大の脅威の一つでした。レバノン南部からイスラエルへの攻撃を繰り返し、2006年には第二次レバノン戦争が勃発しました。

南レバノンには、国連レバノン暫定駐留軍（UNIFIL）が、監視とパトロールの任務で駐留してきました。しかし、ヒズボラの軍備拡大を止めることができませんでした。ヒズボラはイランの支援で、イスラエルに向けて大量のミサイルやロケット弾を配備し、地下には巨大な軍事トンネルや施設を構築してきました。イランはヒズボラを通して、イスラエルを国境から直接攻撃できる態勢を築き、多くのイスラエル市民の命を奪ってきました。

今回の枠組み合意では、レバノン政府がレバノン南部の治安を担い、国家としての主権を回復することを目指します。まず、試験区域でヒズボラの武装解除が進められます。その後、武装解除が

確認された地域で、レバノン軍が治安を担い、その後イスラエル国防軍が段階的に撤収します。アメリカは合意の履行を監督し、レバノン政府と協力し、復興支援がヒズボラに流れない仕組みをつくりまします。実現すれば、長年イスラエル北部を脅かしてきたヒズボラの軍事的脅威が取り除かれ、安全保障における歴史的な転換点となります。また、レバノン国民にとっても、長年にわたるヒズボラの影響から国を取り戻すための一歩です。アメリカのルビオ国務長官は、この合意を「始まりの始まり」と表現しました。歴史的な第一歩ではありますが、ヒズボラの武装解除をはじめ、その実現には多くの困難が予想されます。

イスラエルを取り巻く情勢は刻々と変化しています。その変化の中でも、確かに主はイスラエルを導いておられます。そしてイスラエルの真のよりどころは、強国や武器ではなく、イスラエルの神です。イスラエルが主を信頼し、この困難な時代を乗り越えていけるよう、私たちもみことばに堅く立ち、祈りをもって支えましょう。



6月26日、イスラエル・レバノンがヒズボラ武装解除に向けて歴史的枠組み合意 写真：イスラエル外務省より

ある者は戦車を ある者は馬を求める。しかし私たちは 私たちの神 主の御名を呼び求める。
(詩篇20:7)

- ①イスラエルの人々がどのような困難に直面しても、イスラエルの神に頼り続けることができるように。
- ②イスラエルとレバノンが署名した、和平に向けた「枠組み合意」が御心のうちに導かれ、イスラエル北部の脅威が取り除かれるように。
- ③国際世論がどのように反イスラエルに傾いても、私たちクリスチャンがイスラエルをとりなす使命に立ち続けることができるように。

2. 日本が自然災害から守られるように

近年、日本では自然災害の発生率が高まっています。これからの時期、警戒しなくてはならないのは大雨や猛暑です。気象庁の観測データによると、大雨の発生回数は年々増加傾向にあります。

1時間当たり50mm以上の豪雨が発生する回数は、50年前と比べると、近年は約1.5倍も増加しています。昨年は、数年に一度程度しか発生しないような「記録的短時間大雨情報」が160回を超

え、過去10年間で最多となりました。

豪雨による大規模災害は、特に7月から8月に多く、これからの時期は警戒が必要です。

また、猛暑日も増えています。ここ3年、連続して「観測史上最も暑い夏」の記録を更新しました。これまで比較的涼しかった北日本でも、昨年は夏の平均気温差が3度以上も上昇。日本全体で熱中症の危険が高まっています。

加えて、近年は震度5以上の地震が毎月のように発生し、大地震への備えも急がれます。

日本は地形的に自然災害が発生しやすい国です。主が前もって備える知恵を与えてくださるように。主があわれみのうちに日本を守り、災害が発生した時にも、被害が最小限に抑えられ、人々の命が守られるよう祈ってまいりましょう。

主は すべてののわざわいからあなたを守り あなたのたましいを守られる。(詩篇121:7)

- ①政府や各自治体が、自然災害のリスクを最小限に抑えるための備えができるように。
- ②突然の災害が起きても、人々が命を守る判断と行動が取れるように。
- ③災害に不安を抱いている人々が、平安と希望を与える真の主に出会えるように。

3. 地域オープンハイナイトを覚えて

BFPの働きの土台は、みことばと祈りです。私たちは、この数年特に、祈りを通して働かれる神さまの御業を体験してきました。昨年は2年間祈り続けてきたイスラエルの人質の解放を目撃しました。とりなしの祈りは、暗闇に光をともし、現実を動かす力があります。ハイナイトでは、毎月イスラエルと日本をとりなす祈りを、全国630の教会で心合わせて祈っています。それらの祈りがもたらしている影響は、はかり知れません。毎月ここ東京でもたれるオープンハイナイトは、そうしたハイナイトの祈りの火種と薪くべの役割を果たしています。その月の祈りの課題が、まずオープンハイナイトで祈られ、火種となります。そして、その祈りの火が、全国で熱く燃やされるように、光となるように、薪くべの祈りをしています。

「この祈りの火種と薪くべのオープンハイナイトを、全国に持ち運ぶ」B.F.P. Japanはこのビジョンを主から受け取り、今年から5年間かけて、全国10地域でオープンハイナイトを行います。

地域オープンハイナイトによって3つのことを期待しています。

1つ目は、その地域の祈りがさらに燃やされ、イスラエルを神の愛でとりなす祈り手が新たに起こ

されることです。2つ目は、その地域が日本全体の祝福となることです。毎月、オープンハイナイトでは、全国10地域のハイナイトのためにとりなす特別な祈りをしています。参加者が一人ずつ地域のカードを受け取り、そこに書かれた都道府県のために、使命感をもって、とりなします。例えば、オープンハイナイトを四国で開催する時には、四国で捧げられる祈りが日本全体をとりなす祭司の役割を果たし、祈りの火種と薪くべの場所になります。期待する3つ目の祝福は、全国のハイナイトファミリーで、その地域のために祈りを捧げられることです。東北でオープンハイナイトが開催される時は、全国のハイナイトファミリーで心合わせて東北のために祈ります。旧約時代、祭司が民全体のためにとりなしをしたように、私たちが遣わされた日本において、全国各都道府県のために心合わせてとりなしていきたいと願っています。

今年1回目は、6月に沖縄で行いました。そして10月には2カ所目、金沢にて北陸オープンハイナイトを予定しています。主は、日本の隅々まで目を留め、愛してくださっています。その主の心を私たちの心として、ハイナイトファミリーで心合わせて祈りましょう。

主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心がご自分と全く一つになっている人々に御力を現して下さるのです。(Ⅱ歴代16:9)

- ①日本全国で祈りの火種が力強く燃やされ、日本全体を覆う光となるように。
- ②地域オープンハイナイトを通して、全国各地域を覚え、各地域の諸教会、神の家族を自分の家族として愛し、とりなす祈りがますます起こされていくように。
- ③今年10月の北陸オープンハイナイトを通して、北陸から全国に神の国の祝福が広がっていくように。



特定非営利活動法人 B.F.P. Japan(ブリッジス・フォー・ピース)

TEL: 03-5969-9656 FAX: 03-5969-9657 URL: www.bfpj.org

ハイナイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org